



塩谷建水第 348号
平成20年10月21日

国土交通省道路局長 様

塩谷町長 手塚 功一



今後の道路行政についての意見・提案について（回答）

平成20年9月19日付け国道企第37号により依頼がありました標記の件について、
別紙のとおり回答いたしますので、よろしくお願いいたします。

記

1 提出部数 1部

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

栃木県塩谷町

アメリカ金融機関の破綻に端を発し、世界金融機関の危機が報道されている昨今、日本経済もこの影響を受け景気が冷え込んでいるため、個人消費の落ち込みや雇用関係の先行きが懸念され、財源不足など行財政の運営に多大な影響を及ぼすことが予想されます。

したがって、当然ながら国民から納税された税金の使途について無駄を省き、これまで以上に有効かつ公正公平に行財政の運営が求められます。

よって、下記事項について要望・提案いたします。

- 1、地方が生き残るためには、道路整備は欠くことができませんので、国の財政も厳しいところですが、それ以上に財源が乏しい地方へ分厚い予算の配分をすること。
- 2、「真に必要な道路整備の財源」を確保し、地方が役割分担のもと計画的な道路整備が図れるようにすること。
- 3、地方道路の老朽化が進み維持管理・更新費は毎年増加の一途を辿っていることに鑑み、その財源不足を補てんできるような制度を確立すること。
- 4、地方の道路は、まだまだ未整備区間が多く、特に自転車・歩行者が安全安心して利用できる道路整備を図ること。

今後の道路行政についての意見・提案

様式②

②－１地域の現状と抱える課題

栃木県塩谷町

○現状

本町が生き残るためには、安全安心の道路整備事業を積極的に進め、文化・経済交流の基盤を整備することで、観光客及び企業誘致を図ることが絶対的要件である。

しかし、幹線道路の改良事業はもとより、維持管理・更新事業についても遅々として進まない現状にある。

○課題

厳しい財政事情によって、道路整備計画の鈍化を強いられている。よって、「真に必要な道路」とは、その地域が生き残るために必要な道路として捉え、計画的な道路改良及び維持管理・更新事業が図れるよう財源を確保することが課題である。

②－２地域の目指すべき将来像

栃木県塩谷町

本町は栃木県の中央やや北部、県都宇都宮から北へ30km、高原連峰の西南に位置し、首都圏から約120kmの圏内で東北縦貫高速道路「矢板IC」から15分のところに位置しています。町の面積は176.9km²のうち60%が山林で農林業を基幹産業とした純農村地帯の町である。

また、高原連峰には「原生イヌブナ林」や全国名水百選に選ばれた日量65,000トンの「尚仁沢湧水」などがあり、この水を灌漑用水として利用して、美味しい農産物を生産している。したがって、首都圏の方々に豊かな自然と食にふれ少しでも「心の癒し」となり、第二の故郷づくりに協力できるよう推進していきたい。

企業誘致については、東北縦貫高速道路「矢板IC」から15分のところに町唯一の「塩谷工業団地」があり、すでに優良企業7社が誘致され、雇用確保に大きく貢献しています。農工商業のバランスのとれたまちづくりを進めるためには、まだまだ企業の誘致が必須であるので、1社でも多く誘致できるよう推進していきたい。

これらを具現化するために、新長期振興計画「キラリしおや21プラン」に基づき、絶対的条件である社会資本の整備を積極的に推進し都市圏に無い物を提供し、人と人のふれあいができる心豊かな「塩谷町」を目指している。

今後の道路行政についての意見・提案

様式④

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

栃木県塩谷町

○重点事項 事例なし	○代表事例	○期待する効果や評価	○その他